

分詞構文

分詞構文とは、何だろう？

・・・SVが2つある文を、SVを一つにし、文を短い文にする事。

(分詞構文の接続詞)

1. 時	～の時(when)
2. 理由	～なので(Because)(since)(As)
3. 条件	もし～すると(If)
4. 譲歩	～だけれど(Though)
5.	～している間(While)
6. 付帯	～しながら(・・・して～する)(, ing)

Generally speaking	一般的に言えば
Frankly speaking	率直に言えば
Strictly speaking	厳密に言えば
Judging from～	～から判断すると
Talking of～	～と言え
Weather permitting	天気が許せば
Compared with～	～と比べると
Considering～	～を考慮すると
All things considered	全てを考慮すると
Seen from～	～から見ると
Admitting that..	・・・だとは認めるが
Granting that..	・・・だとは認めるが

分詞構文の作り方

チェック1	主語が同じかどうかを見る→→→ [同じ時] (接続詞のある方の) 主語を省略できる →→→ [違う時] (接続詞のある方の) 主語は省略できない
チェック2	時制が同じかどうかを見る→→→ [同じ時] (接続詞のある方の) 動詞をingにする →→→ [違う時] (接続詞のある方の) 動詞をhaving P.P.にする * 「時制が違う」という場合は、 1. 現在と過去 2. 現在と現在完了 3. 過去と過去完了 のことで 未来と現在は、「時制が同じ」として扱う
チェック3	接続詞は常に省略できる * 但し、1.Though S V (SはVだけれど), 2.While S V (SがVしている間)などは、 分詞構文の意味を明確にするために省略しないケースが多い (例1) 1.Because he is young, he can do it. (彼は若いのでそれをすることが出来る) 2.Though he is young, he can do it. (彼は若いけれどもそれをすることが出来る) 上の1と2は通常の接続詞を外す分詞構文で作ると両方共(Being young, he can do it.)になってしまって、 意味が明確にならないケースがあるので(接続詞 Though)は、通常省略しないで次のようにする Though young, he can do it. (例2) While he was watching TV, he fell asleep. While watching TV, he fell asleep.
チェック4	分詞構文の否定は、Not～ing (Not having P.P.) の形にする
チェック5	Beingを含めて3語以上の時は、文頭のBeingは、省略出来る (文頭ではないbeingも省略される時もある) Because he was tired, he didn't go there. →→→ Being tired, he didn't go there. Because he was very tired, he didn't go there. →→→ Very tired, he didn't go there.
* S V, ~ing (カンマingの形をしているもの)	1. 「～して・・・する(した)」 2. 「～しながら」
1.He went out of the room, saying good-bye.	○彼は部屋を出て、さよならと言った。 ○彼はさよならを言いながら部屋を出た。
2.The airplane departs from Haneda at 5:30, arriving in Naha at 7:00.	○その飛行機は5:30に羽田を出発して、那覇に7:00に着く。 ×その飛行機は那覇に7:00に着きながら5:30に羽田を出発する。